

松村雄基・杉本彩・吉田要士が贈るクリスマスファンタジーが柳川に

8月12日
販売開始



ミュージカル 「クリスマス・キャロル」2023

イギリスの文豪チャールズ・ディケンズによる小説をもとにしたオリジナルミュージカル「クリスマス・キャロル」。主役を務めるのは、卓越した表現力を生かしてミュージカルで活躍する松村雄基。鍵となる3人の女性を演じるのは、女優や作家、ダンサーとして幅広く活躍する杉本彩。そして主役の親友かつビジネスパートナー役は吉田要士。1年に1度やってくるクリスマスイブに繰り広げられる、不思議で心温まる12時間の奇跡を最高のキャストが鮮やかな音楽とダンスで描きます。王道のミュージカルならではの華やかさと迫力の舞台は必見です。この冬、大切な人と一緒に、最高のひとときを体感ください。

- 日時 12月16日(土) 午後1時開演(開場は45分前)
- 入場料(全席指定) 一般4000円、高校生以下1000円(地域創造の助成金による特別料金)。未就学児は入場不可
- 無料託児(未就学児) 11月30日(木)までに要予約
- 発売日 8月12日(土) 午前10時から市民文化会館で販売開始(1人4枚まで)

3000人で作り上げるアートプロジェクト

「時の海 - 東北」参加者募集

デジタル数字を用いた作品で注目を集める現代美術家の宮島達男氏。東日本大震災犠牲者の鎮魂と震災の記憶継承を目的に、宮島氏が発案した3000人と共に作り上げるアートプロジェクトを開催します。「9、8、7…」とカウントダウンするLEDの数字が切り替わる速さを参加者が設定。プロジェクトのイメージは、市公式サイトから動画で確認できます。

- 日時 9月9日(土) 午後2時～
- 対象 誰でも参加可能(先着40人)
- 申込方法 9月1日(金)までに市公式サイトから専用フォームにアクセスして申し込むか、市民文化会館へ電話で申し込み。定員になり次第締め切り
- 参加料 無料

suito 定例イベント

詳しくは、同館の公式サイトで確認できます。

第3木曜 リトミックひろば

- 日時・料金・講師 8月17日(木) ①午前10時～②午前11時～(各40分)、1組500円、CHIAKI



第3金曜 ロビーコンサート

- 日時・料金・出演 8月18日(金) 午後7時～(約60分)、無料、古賀理紗



昆虫に魅せられた高椋悌吉

市史編さん係 中村淳一



音楽会の集合写真(撮影時期不明。柳川古文書館所蔵)。最前列の左から3人目が悌吉



高椋悌吉(左の写真より拡大)



「日本昆虫大図鑑」に掲載されたタカムクチョウ(出典:国会図書館デジタルコレクション)

今年、昆虫学者として有名なファーブルが生まれてから200年の節目の年です。そこで今回は、大正から昭和初期にかけて昆虫に情熱を傾けた実業家の高椋悌吉という人物を紹介します。

悌吉は、明治8(1875)年に現在の八百屋町で醤油醸造業を営む高椋重吉の長男として生まれました。中学伝習館から東京帝国大学に進み、卒業後に帰郷して家業を継ぎます。その傍らで地元の柳河町の町会議員に当選。また、興産株式会社や柳河銀行の重役、柳河音楽会の会長を務めるなど地域で多くの業績を残しました。その一方、動植物の鑑賞を趣味にしている、自宅でフジやボタンの花を栽培していた他、鑑賞用の小鳥小屋も設置。また昆虫、特にチョウとガの研究には熱心で、夜間に自宅の縁側で電球を灯して昆虫を採集するだけでなく、台湾などの外国でも採集活動するほどでした。さらに同好者との交流で世界の貴重な昆虫標本を求めて交換しあった結果、自宅には多くの標本箱が積み重なっていました。

やがて悌吉の活動が世間に注目され、北海道帝国大学教授の松村松年ら昆虫学者の他、九州の植物学研究所の第一人者原田万吉、九州帝国大学総長の真野文二ら著名人が彼に会うために柳川を訪れるようになりました。

松村は、地方によってバラバラだった昆虫の呼び名を和名に統一した人物。悌吉より3歳年上で、当時の日本昆虫学研究所の第一人者でした。「柳河新報」には大正8(1919)年9月と大正13年12月に、松村が九州出張のついでに柳川の高椋邸を訪れたことが報じられています。大正8年9月8日に中学伝習館で松村が講演したときには、「高椋を有する柳河は名譽だ」と発言。また、昭和6(1931)年に松村が書いた「日本昆虫大図鑑」には、標本提供を受けた友人として悌吉の名が挙げられています。また、「タカムク」を用いて命名したチョウやガの種が掲載されていて、両者の親交の深さがうかがえます。

昭和5年4月3日に亡くなった悌吉。遺族の意を受けた松村は翌年7月21日、柳川の高椋邸を訪れて、残された1万点以上の昆虫標本を整理し北海道へ発送。貴重な蝶蛾の標本のみを携えて23日の夕方へ帰途につきました。こうして悌吉の昆虫標本が北海道帝国大学に寄贈されました。

アマチュアだったせいか、残念ながら昆虫研究者としての悌吉の名は、現在ほとんど知られていません。しかし、彼の研究が日本の昆虫学研究史に少なからず影響を与えたことは間違いありません。

※表記は広報紙のルールで統一しています。